

2016年度 環境活動レポート



橋村電材株式会社

報告期間：2015年10月1日～2016年9月30日

1 橋村電材株式会社の事業概要

(1) 事業者名及び代表者名

橋村電材株式会社 代表取締役 高橋 等

(2) 所在地

- ① 本社工場 〒194-0035 東京都町田市忠生 1-18-1
- ② 第二工場 〒194-0035 東京都町田市忠生 2-31-16 大和ビル 1階
- ③ 事務所・倉庫 〒194-0035 東京都町田市忠生 2-31-16 大和ビル 2階

(3) 環境責任者

業務部 部長 高橋 明典

(4) 担当者連絡先

〒194-0035 東京都町田市忠生 2-31-16 大和ビル

業務部 部長 高橋 明典

TEL: 042-793-5434 FAX: 042-791-6069

E-mail: a-takahashi@hashimura.co.jp

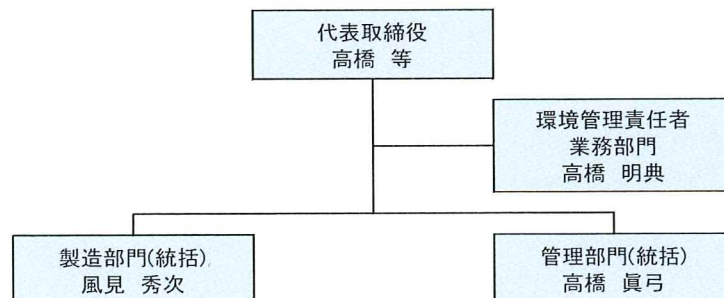
(5) 事業概要 (2016年10月1日現在)

- ① 主な事業 : 工業用プラスチック製品の製造販売、樹脂素材の切削加工
- ④ 資本金 : 1,000 万円
- ⑤ 従業員数 : 18 名
- ⑥ 売上高 : 2015 年度 XXX (百万円)
2016 年度 XXX (百万円)
- ⑦ 床面積 : 522.52m²
- ⑧ 認証登録の範囲 : 当社事業活動の全活動
環境活動レポートの期間・・・2015年10月1日～2016年9月30日
環境活動レポートの発行日・・・2016年11月20日
次回環境活動レポートの作成予定日・・・2017年11月20日

2 環境保全管理体制

橋村電材株式会社 環境管理組織図

(2016年10月1日現在)



～橋村電材株式会社 環境方針～

<基本方針>

弊社は地域及び地球環境の維持、向上に努めることを社会的責務と認識し、従業員並びに地域住民をはじめとした関係する人々の生命、健康、財産を守り社会との共存共栄を図ると共に、事業活動における環境改善を推進します。

<行動指針>

- 1、無事故無災害の事業活動を継続し、従業員並びに地域住民の安全と健康を確保する。
- 2、事業活動の全域で省資源、省エネルギーの推進に努める。
以下の3点は主な実施事項として取り組む
 - ① 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
 - ② 消費エネルギー（自動車燃料、電力、ガス、水資源）の削減
 - ③ 環境への負荷が少なく、環境保全に役立つ製品の優先的な購入
(グリーン購入の推進、梱包資材のリサイクルと購入量削減)
- 3、環境に関する法律、条例、その他要求された事項を順守する。
- 4、社内での環境教育、広報活動を実施し、全社員の環境問題に対する意識向上を図る。

2015年10月1日
橋村電材株式会社
代表取締役

高橋 等 

4 環境保全目標

2014年度の実績より算出した、温室効果ガス排出量、及び廃棄物の削減を目標設定しました。

目的	目標	実施施策	2014年実績	2016年計画
省エネ活動	電力使用量削減	空調機器のコントロール	63.976 (Kwk)	2014年度比 2%削減 (目標数値) 62,695kWK
		照明機器のコントロール		
		機械未使用時の電源オフ徹底		
	自動車燃料使用量節減	エコドライブの実践	1,731.68 (L)	2014年度比 2%削減 (目標数値) 1,697.00L
		自社配達比率の圧縮		
		低燃費営業車の更なる導入		
	灯油使用量削減	暖房機器のコントロール	1.613 (L)	2014年度比 2%削減 (目標数値) 1,581L
LPGガス使用量削減	給湯器のコントロール	47.1 (m ³)	2014年度比 2%削減 (目標数値) 46.1m ³	
水使用量削減	食堂、トイレの節水	457 (m ³)	2014年度比 2%削減 (目標数値) 447.9m ³	
廃棄物削減	廃棄物削減	不良品の撲滅	4.23 (t)	2014年度比 2%削減 (目標数値) 4.14
		ペーパーレス化の推進		
	リサイクル	再利用できる廃プラ分別の徹底	(2.4t)	(2.5t)
環境保護	資源使用量の削減	コピー用紙購入量の削減	0.502 (t)	2014年度比 2%削減 (目標数値) 0.492t
		梱包材購入量の削減	0.775 (t)	2014年度比 2%削減 (目標数値) 0.756t
エコ活動	従業員への意識付け	グリーン購入の推進	常に意識	-
二酸化炭素排出量			45,170.749 (kg-CO ₂)	2014年度比 2%削減 (目標数値) 44,267.334kg-co ²

【購入電力の排出量係数は、環境省報道発表(平成 25 年 12 月 19 日)による東京電力の係数=0.406Kg CO₂/kWh を用いました。】

5 環境保全活動取り組み実績と評価

レポート改訂に当たり、10月1日から9月30日までの一年間の目標と実績を確認した。

以下はその実施内容、及び活動実績、年度数値計画との比較を表でまとめました。

目的	目標	実施施策及び内容	活動実績	2016年度計画	2016年度実績 (2015.10.1～ 2016.9.30)	評価	
省 エ ネ 活 動	購入電力	空調機器のコントロール (冬期設定温度 22° 夏季設定温度 26°)	朝の始業前とお昼休み終了後に 全空調機器の設定温度をチェック リストを使用し確認。	62,695 (単位: kWh)	81,461 (単位: kWh)	△	
		機械未使用時の電源OFF (工作機械、PC、検査機器など)	お昼休み時と業務終了時にチェッ クリストを使用し確認。				
		照明機器のコントロール (不在時の電源OFF徹底)	食堂および検査室の未使用時電 源オフを徹底。				
	化石燃料	自動車燃料使用量削減	エコドライブの実践 (駐車中アイドリングオフの徹 底)	各営業車に告知ファイルを設置し 意識付けを図ると共に実践。	1,697.00 (単位: l)	2,718.57 (単位: l)	△
			自社配達比率の圧縮 (宅配発送の比率アップ)	納期管理と効率発送を心がける。			
			保有車両の見直し (平成17年規制適合車の使用)	ハイブリッド等の低燃車の導入。			
		灯油使用量削減	暖房機器のコントロール (使用時間 AM8:00～AM10:00 PM15:00～PM19:00)	使用時間の徹底を図る。	1,581.00 (単位: l)	936.00 (単位: l)	◎
		LPGガス使用量削減	給湯器のコントロール (未使用時の元栓OFF徹底)	使用頻度の削減を図る。	46.1 (単位: m ³)	41.6 (単位: m ³)	◎
	水資源	水使用量削減	台所、トイレの節水 (出しっぱなし厳禁)	会議での意識付けを図る。	447.9 (単位: m ³)	364 (単位: m ³)	◎
	廃棄物削減	廃棄物削減	一般廃棄物削減の徹底 (不良品の撲滅)	在庫管理表を作成し端材の有効 活用に取り組む。	4.14 (単位: t)	5.47 (単位: t)	△
ペーパーゴミ削減 (コピー用紙の削減と再利用)			会議での意識付けを図る。				
リサイクル		廃プラ・段ボール分別の徹底 (切削くずの分別回収徹底)	再利用が可能な端材、切削屑、および 再利用不可の梱包用段ボールを分別 収集することで一般廃棄物の削減に取 り組む。	(2,5) (単位: t)	2.16 (単位: t)	○	
環境保護	資源使用量の削減	コピー用紙使用量の削減 (ペーパーレス化の推進)	用紙保存文書のデータ化を進め る。	0.492 (単位: t)	0,447 (単位: t)	◎	
		梱包材購入量の削減 (段ボールの再利用)	簡易包装と段ボールの再利用の 徹底。	0.756 (単位: t)	0,695 (単位: t)	◎	
エコ活動	従業員への意識付け	グリーン購入の推進	会議での意識付けを図る。	常に意識	138点/年間	○	
二酸化炭素排出量				44,719.04 (単位: kg-CO2)	66,930.7457 (単位: kg-CO2)	△	

評価欄記号の意味=「◎」かなりできた 「○」注意することはできた 「△」注意はしたが不満足な結果 「×」未着手

☆目標に対する数値は生産活動に直結する分野での項目が計画未達であった。この要因には生産工場の拡大と設備増強、生産手法の変更（夜間無人運転生産の比率アップ）や営業活動強化による自動車移動の増加があげられる。ここ数年は売り上げが増加していることと併せて、設備増強の流れは継続する計画の中で基準年度との比較のみで単純にエネルギーの削減を反比例させるように削減することは難しい状況である。しかしながら今後も「無駄を無くす活動」についてはコスト削減の意味からも継続的に目標に近づける努力を怠らない考えである。

<目標に対する実績評価-2015.10.1～2016.9.30>

項目	削減率	内容分析
総エネルギー投入量	購入電力	△29.9% 夜間無人生産実施に伴う稼働時間増と算出事業場所増加による。
	自動車燃料	△60.2% 営業活動の強化に伴う自動車使用比率の拡大
水資源投入量	上水	-
廃棄物最終処分量	最終処分量	国内生産量の増加と生産方法の変更に伴う
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	電気使用量、ガソリン使用量、産廃処理量増大による

<環境管理責任者総括>（次年度の取り組み）

温室効果ガス排出量の削減は計画を大幅に下回った。

しかしながらプラスチック切削加工と言う業態では電力使用量、廃棄物最終処分量については生産量の増加と比例してどうしても増加してしまうものである。デフレ傾向が続いたこの業界において、若干ではありますが光が見え始めた状況の中で生産量、および利益拡大を図るには、既存の生産手法では企業の存続にかかわってくるため、夜間の無人生産の強化や定尺サイズからの多数個取り生産は必須であり、これによって電力使用時間が大幅に増え、少なからず材料の無駄も多くなってしまった。

今後についても、燃料費のアップによる原材料費、運搬費の値上げなど円安の恩恵を受けにくい零細企業においては、電力削減の必要性は十分に理解しているものの、数値合わせだけの目的で製造現場での電力使用量に制限をかけることは事業の悪化につながる。併せて働き方の改善策として夜間の無人運転化と生産設備の増強をさらに推し進める予定であるため、電力の使用時間、使用量は今後大幅に増える傾向にある。よってコスト面では太陽光発電システム、新電力会社との契約などによるコスト削減を進めつつ、使用量増加をある一定の段階で抑制する手段を見つける必要があるであろう。

また廃棄物の削減について、完全受注生産と言う弊社業務の特性から「意識的に削減を実行」することは非常に難しい現状があるため、「不良品の撲滅」「扱い素材の集約」と言った自社でできる削減策を考えて行かなくてはならない。

併せて分別の徹底によりリサイクル可能な状態を増やすことで削減を図っていく。

6 環境保全目標

一昨年度に新3か年計画を作成したが今期の実績を見る限り、基準年度の数値が妥当な数値とはかけ離れていることが浮かび上がった。今後も設備増強などが予定されており、ここ数年は前年度との比較と言う基準を設け、2年後3年後は前年目標の1%削減を計画値として仮置きする。

目的	目標	実施施策	2016年実績	2017年計画	2018年計画	2019年計画
省エネ活動	電力使用量削減	機械未使用時の電源オフ徹底	81.461 (kWh)	2016年度比 1%削減 (目標数値) 80,646kWh	2017年計画比 1%削減 (目標数値) 79,840kWh	2018年計画比 1%削減 (目標数値) 79,042kWh
		空調、照明機器のコントロール				
		協力工場での加工比率拡大				
	自動車燃料使用量節減	エコドライブの実践	2,718.57 (L)	2016年度比 1%削減 (目標数値) 2,691L	2017年計画比 1%削減 (目標数値) 2,664L	2018年計画比 1%削減 (目標数値) 2,637L
		自社配達比率の圧縮				
		低燃費営業車の更なる導入				
	灯油使用量削減	暖房機器のコントロール	936 (L)	2016年度比 1%削減 (目標数値) 927L	2017年計画比 1%削減 (目標数値) 918L	2018年計画比 1%削減 (目標数値) 909L
LPGガス使用量削減	給湯器の使用頻度抑制	41.6 (m ³)	2016年度比 1%削減 (目標数値) 41.2m ³	2017年計画比 1%削減 (目標数値) 40.8m ³	2018年計画比 1%削減 (目標数値) 40.4m ³	
水使用量削減	食堂、トイレの節水	364 (m ³)	2016年度比 1%削減 (目標数値) 360m ³	2017年計画比 1%削減 (目標数値) 356m ³	2018年計画比 1%削減 (目標数値) 352m ³	
廃棄物削減	廃棄プラスチック	不良品の撲滅	5.47 (t)	2016年度比 1%削減 (目標数値) 5.42t	2017年計画比 1%削減 (目標数値) 5.37t	2018年計画比 1%削減 (目標数値) 5.32t
	リサイクルプラスチック	ペーパーレス化の推進	1.57 (t)	2016年度比 1%削減 (目標数値) 1.55t	2017年計画比 1%削減 (目標数値) 1.53t	2018年計画比 1%削減 (目標数値) 1.51t
	段ボール・用紙	再利用できる廃プラ分別の徹底	0.59 (t)	2016年度比 1%削減 (目標数値) 0.58t	2017年計画比 1%削減 (目標数値) 0.57t	2018年計画比 1%削減 (目標数値) 0.56t
環境保護	資源使用量の削減	コピー用紙購入量の削減	0.502 (t)	2016年度比 1%削減 (目標数値) 0.496t	2017年計画比 1%削減 (目標数値) 0.491t	2018年計画比 1%削減 (目標数値) 0.486t
		梱包用段ボール購入量の削減	0.775 (t)	2016年度比 1%削減 (目標数値) 0.767t	2017年計画比 1%削減 (目標数値) 0.759t	2018年計画比 1%削減 (目標数値) 0.751t
エコ活動	グリーン購入の推進	環境に配慮した製品の優先購入	-	常に意識	常に意識	常に意識

7 環境関連法規制の順守状況、訴訟の有無

① 環境関連法規制

<主な適用法規>

- 廃棄物処理法 ○騒音規制法 ○振動規制法 ○改正フロン法
- 下水道法及び町田市下水道条例 ○東京都環境確保条例

上記の法規に対する遵守状況の評価を本社工場については2009年3月17日、第二工場については2016年2月24日に町田市環境保全課ご担当者様立会いのもとに行い、すべての法規制などの違反が無いことを確認している。

また2016年10月1日に上記の法規順守状況の社内監査を実施し、違反が無いことを再度確認した。

② 訴訟などの有無

訴訟や近隣からの苦情は無い。

また関係当局より違反などの指摘は過去3年間無い。

8 社長総括

アベノミクスによる円安進行により零細企業は景気回復の恩恵よりも「輸入資源」の価格上昇や「人件費アップ」「人手不足」が大きく進行し、我々ができる事業継続に対する「リスクヘッジ」はより限定されている。こうした中でどれだけ効率の良い経営を持続していくかがこの「日本」と言う国で事業活動、及び日々の社会生活を送っていく我々にとってはまさに「生き残り」をかけた重要なテーマである。

直近で発表された「日銀短観」においても景気は横ばいと発表があり先行きは不透明で、仕事の供給元からは継続的なコスト削減要求が続く中で我々が「環境保全」にかかる費用は人件費、設備投資等含め上昇傾向にある。

こうした状況を踏まえ、この活動が単なる数値合わせに終わることなく、社員全員の生活全般の改善と言う「意識改革」に繋がることを期待し、なおかつ事業の発展、企業価値の上昇に繋がることを信じ、この活動を継続して行きたい。

また本業の中で使用するプラスチック素材及び副資材の安全性（特にEUの指令であるRoHS指令、REACH規則）についての確認を徹底し、製品への有害物質の混入を防ぐ活動に力を注いで行きたい。

以上